



# サイエンスチーム

探究・STEAM 教育動画

## ともにキヅク社会

### 教員用ガイド

小学校高学年、中学校、高等学校 共通

1. はじめに	.....	P.1
2. 本教材を効果的に活用できる場面	.....	P.2
3. 本教材のねらい	.....	P.3
4. 本教材の特徴・教材観	.....	P.4
5. 評価規準および評価基準	.....	P.4
6. 授業の流れ	.....	P.5 ~ 6
7. 授業の進め方のパターン詳細	.....	P.7 ~ 8
8. 授業後の展開案	.....	P.8 ~ 9
9. 補助教材の活用（ワークシート・探究のしおり）	.....	P.10 ~ 11

# 1 はじめに

本資料は、小学校高学年～高等学校の総合的な学習（探究）の時間やキャリア教育の場面で、探究・STEAM 教育動画「ともにキツク社会」シリーズを効果的に活用するためのポイントをまとめた教員用ガイドです。

## 本教材（一式）

- 動画 …… 5 本
- 探究のしおり（補助教材） …… 5 種（それぞれの動画に対応しています）
- 児童生徒用ワークシート …… 2 種
- 教員用ガイド（本資料） …… 1 種

本教材は、動画視聴と対話の組み合わせによって探究活動やキャリア教育へとつなぐ導入教材です。知識を得ることを目的とせず、児童生徒の中に生まれる気づき・引っかかり・疑問を起点に、身近なテーマを新たな視点から捉えるきっかけをつくります。

授業は、[動画]→[ワークシート]→[グループ対話] という流れで実施でき、状況に応じて柔軟に調整できます。本資料では、教材のねらい・特徴を整理し、探究活動とキャリア教育の 2 つの視点から活用ポイントと授業例を示します。

## 動画「ともにキツク社会」シリーズとは

【キツク】 本動画のテーマである造語 1. 気がつく（気づく） 2. しっかりとつくる（築く）

本シリーズは、身近なモノやサービスを入口に、社会を支える多様な仕事と、その現場で働く人々の思いや工夫を「現場のリアル」として描いた動画です。「こんな裏側があったんだ」「どうしてこうなっているのだろう？」といった気づきや問いが自然に生まれる構成となっており、視聴者が社会との関わりに目を向け（＝「気付く」）、未来の社会を自ら「築く」姿勢を育むことをねらいとしています。



洋服づくりでキツク社会



冷凍食品でキツク社会



鉄道でキツク社会



カプセルトイでキツク社会



美術館でキツク社会



ぜひ一度  
ご覧ください

<https://scienceteam.jst.go.jp/channel/b240001/>

## 2 本教材を効果的に活用できる場面

本教材は、学びの入口で「何に着目すればよいか」「どんな疑問をもてばよいか」の糸口がつかみにくい場面で効果を発揮します。主に、以下の2つの場面での活用を想定しています。



### 活用場面① 探究活動の課題設定フェーズ

探究活動の初期段階では、児童生徒が「何を探究すればよいかわからない」「問いが立てられない」と壁にぶつかり、立ち止まることがあります。そうした場面での支援に苦心されている教員の方も多いのではないのでしょうか。

本教材は、動画を通じて、身近なモノやサービスの成り立ちや、その背景にある仕事の工夫、社会とのつながりを多様な切り口で紹介します。児童生徒は動画を観て、「なにこれ?」「わっ、面白い」「これ知ってる!」「もっと知りたい」といった驚きや感動を伴う幅広い「気づき」を得やすくなります。

得られた「気づき」を手がかりに対話を行うことで、複数の「問いのタネ」が生まれ、課題設定を「与えられるもの」から「自分で生み出すもの」へ転換していくことができます。



### 活用場面② キャリア教育（職場体験・進路探究）の導入フェーズ

進路や職業を考える活動では、「将来何になりたいか」を考える以前に、世の中にどのような仕事があり、それぞれの仕事がどのように社会とつながっているのかを知ることが重要です。しかし、児童生徒の日常からは、職業のリアルな姿や社会的な価値・役割を具体的にイメージすることは容易ではありません。

そのため職場体験や職業調べ等が行われていますが、児童生徒の興味・関心のスイッチが入りにくく、そこで得た気づきや学びが十分に深まりにくい場合もあります。

本教材は、身近なテーマに関連する仕事の様子や、携わる人々の思い・工夫・こだわりを動画の中に発見することで、児童生徒の「こんな仕事なんだ」「もっと知りたい」「この先はどうなっているんだろう」といった興味や疑問が自然に生みだされ、「働くこと」や「進路」を自分ごととして考えるための足場となります。

## その他の活用方法

### ◎ 教科学習との連携

各教科の単元学習と結びつけ、教科内での探究的な学びの導入に活用することもできます。以下に例を示します。

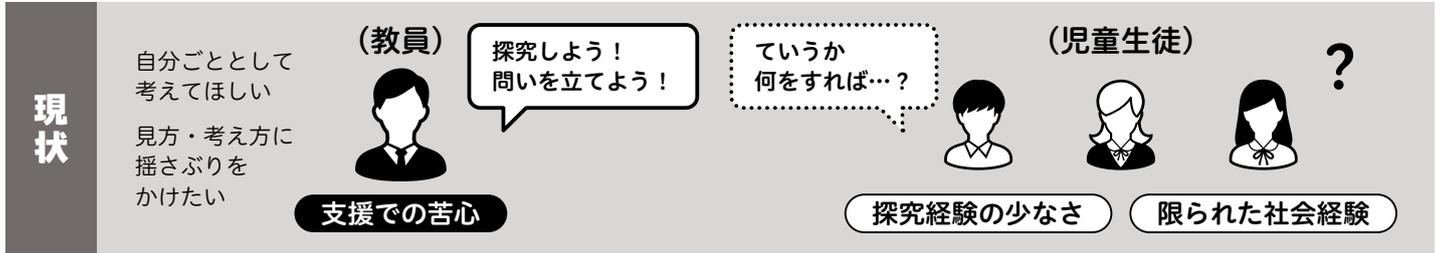
- 鉄道でキツク社会 …… 社会科：公共サービス／交通／インフラ／災害 等  
理 科：金属の性質 等
- 冷凍食品でキツク社会 …… 社会科：暮らしと経済／食産業と流通 等  
理 科：物質の状態変化（熱） 等  
家庭科：食生活／栄養と献立 等

### ◎ 教員研修・校内研修での活用

教員同士の教材研究でも活用できます。動画を観ながら各教員の多様な視点を共有することで、「児童生徒の気づきや問いを引き出す方法」「効果的な問い返しや板書の工夫」等を議論でき、授業づくりのヒントとなります。

### 3 本教材のねらい

本教材は「ともにキヅク社会」をテーマに、身近な題材から生まれる気づきや疑問を探究へつなげることを目的としています。動画を通して現場の思いや工夫、社会とのつながりに触れ、対話によって多様な視点を共有します。これにより、**探究活動**では自ら問いを立てて課題設定へ進む力を、**キャリア教育**では主体的に進路や働き方を考える力を育みます。



### 指導前後の児童生徒のすがた

#### 指導前（よくある課題・すがた）

- 日々の暮らしの中で、「気になること」「もっと知りたいこと」が少ない。
- 見方・考え方が固定化しており、自分なりの問いが立てにくい。ただ単に「知っている」にとどまっている。
- 問いが「調べれば答えが出る内容」寄りになり、視点の広がりが弱い。
- 「仕事」や「社会」が身近でなく、何に注目してよいか分からず、思考が止まりやすい。

#### 指導後（目指す変化・すがた）

- 「気になること」「もっと知りたいこと」が幅広く生まれる。身近なことに向ける注意が深まる。
- 多様な視点に触れ、見方・考え方が広がる。他人の意見も柔軟に受け入れ、考えられるようになる
- 探究活動やキャリア教育につながる、「問いのタネ」を数多く持てるようになる。
- 身近なテーマを社会とのつながりとして捉え直し、自分ごととして考え始められる。

## 4 本教材の特徴・教材観

本教材は、動画視聴と対話を組み合わせ、自分の気づきを言語化し、仲間と共有することで、探究学習の学びの入口をつくります。

### ● 児童生徒に与える影響

動画をきっかけに、日常生活や授業の中で「気になる」「もっと知りたい」といった関心や疑問が生まれやすくなります。身近なモノやサービスを、ただ利用・消費する対象としてではなく、「なぜこうなっているのか」「誰がどのように支えているのか」「将来どうなっていくだろうか」「自分はどうか考えるか」といった多様な視点で捉え直し、問いのタネ（気づき・違和感・驚き・発見）を増やしていきます。さらに、対話を通じて他者の視点に触れることで、見方を広げたり更新したりする経験につながります。

### ● 教材の教育的価値

本教材は、[動画] × [対話] によって、児童生徒の興味や問いの幅を広げるよう設計されています。動画は知識を効率的に習得させるものではなく、仕事や社会の現場のリアルや、そこで働く人々の思い・工夫・こだわりに触れて、見方・考え方を揺さぶる構成です。視聴後は対話を中心に、気づき・疑問を言語化して共有し、主体的な学びへつなげます。こうした活動に参加することで、日々の「気づく力」や学びのアンテナも育っていきます。

## 5 評価規準および評価基準

### ● 評価規準（評価の観点）

知識・技能	①社会とのつながりの把握	身近なテーマを、社会のしくみやつながりの観点から、多面的に捉えることができているか。
思考・判断・表現	②気づき・疑問の言語化	動画視聴や対話で生まれた「気づき」や「疑問」を自分の言葉で捉え直し（＝言語化）、思考を整理できているか。
	③見方・考え方の広がり	対話を通して他者の「気づき」や「疑問」に触れ、自分の見方・考え方を広げたり更新したりできているか。
主体的に学習に取り組む態度	④関心起点で動く姿勢	自分の関心を出発点に「気づき」や「疑問」を生み出し、それをもとに次の学び（調べる、確かめる等）につなげようとしているか。

### ● 評価基準（評価のためのルーブリック）

	評価方法	A（十分できる）	B（できる）	C（一部できる）	D（要支援）
①社会とのつながりの把握	ワークシートの記述内容とグループでの発言をもとに評価	Bに加え、その領域の主な課題や将来の可能性まで捉えられる。	Cに加え、その人たちがどのようにつながり合っているかまで想像できる。	身近なテーマを、社会の中でどんな人たちが支えているか想像できる。	身近なテーマを、社会の中でどんな人たちが支えているか想像しにくい。
②気づき・疑問の言語化	ワークシートの記述内容とグループでの発言をもとに評価	Bに加え、事実と感想を切り分けたり、理由や背景まで言語化したりする等、思考を整理できる。	経験をもとに、気づき・疑問を幅広く言語化して挙げることができる。	経験をもとに気づき・疑問を言語化することはできるが、数が少なく、幅も限定的。	言語化が苦手、そもそも経験から気づき・疑問が生まれにくい。
③見方・考え方の広がり	グループでの発言とワークシートの振り返り欄をもとに評価	Bに加え、自分と異なる意見や、自分の持っていない視点を求め、日々考えを磨いている。	他者の意見をじっくりと聞き、自分の考えに積極的に取り入れようとする。	他者の意見を聞いて理解は示すが、その視点を自分の考えに取り入れることは弱い。	他者の視点を受け取り、自分の考えに取り入れることがほとんど見られない。
④関心起点で動く姿勢	授業中および授業後の行動観察をもとに評価	Bに加え、関心の軸をもとに、やりたいことを自分で決めて行動できる。	「自分はこれが気になる」という関心の軸をもとに、自分なりに考えを進められる。	「自分はこれが気になる」という関心の軸はなんとなくあるが、思考や行動に結びつけられていない。	「自分はこれが気になる」という関心の軸があまりなく、受け身になりやすい。

※評価基準の表データは編集可能な方式で配布しています。学校・クラスの状況に合わせて調整のうえ、ご活用ください。

## 6 授業の流れ

### 1 探究活動の文脈で活用する場合の進め方

段階	ねらい	留意点	語り・声かけの例
導入	正解探しから離れ、気づきを増やすモードに切り替える	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 今日の授業は「知識を得る」のではなく、動画を観ながら、自分の中の気づきを集める時間だと明確に伝える。</li><li>■ 特に、大きな気づきである必要はなく、小さな引っかかりで十分であり、最初はうまく言語化できなくてもよいことも強調する。</li><li>■ 質より量が大事なので、視聴中に気になったことをとにかくワークシートにメモすることが大切だと伝え、記述への負担感を和らげる。</li></ul>	今日のテーマは「ともにキツク社会」。身近なテーマの動画を観て、みんなの「なにこれ？」「へえ！」「なんで？」を集めます。正解を出さず授業ではありません。引っかかったことを短い言葉でメモしていこう。
展開	動画を観た反応を言語化し、共有しながら、見方・考え方を広げる	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 動画を観ながら十分にメモしきれなかった児童生徒のために、視聴後にも少し記入時間を取る。</li><li>■ グループ内で意見を交換するよう促す。ワークシートの記入内容を全て共有する必要はなく、「一番気になったこと」を順に話したり、意外な着目点等があればそこを深掘りしたりしてよいことを伝える。</li><li>■ 対話ワーク中は教室全体を歩き回りながら、対話が止まっている・発言者が偏っている・対話が浅いグループがないかを観察する。必要に応じて声かけをし、さらなる対話を促す。</li></ul>	まずはそれぞれ1つだけ、「一番引っかかった」ことを書いてみよう。 それって、どの場面のこと？どこが気になった？別の見方をした人はいる？ もし動画に続きがあるなら、どこをもっと観たい？ ささいなことかも、と思ったことでも話題に出してみよう。
まとめ	クラスの気づきを束ね、次の探究へ接続する足場をつくる	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 各グループから「盛り上がったこと／深まったこと」を1つずつ拾い、板書等で整理する。その際、「この視点は面白いかもしれない」「探究しがいがありそう」といったポジティブな可能性を添えて児童生徒に返すことが大切。</li><li>■ 今後の探究活動につなげていく場合には、ワークシートの振り返り欄に「印象に残ったもの」や「特に気になったこと」を記入するように促す。</li><li>■ 今後探究していきたいという雰囲気をつくるのが重要なので、結論をまとめ切ろうとはしない。</li></ul>	グループ内で「へえ！」が一番大きかったのは？ 今出た視点、面白いね。ここからいろんな方向に広がりそう。 同じ動画でも見方がこんなに違うのは面白かったね。今日は答えを出す日ではなく、「問いのタネ」を集める日なので、ここまでで十分です。これを生かして、これから探究していきましょう。

次ページに続く↓

## 2 キャリア教育の文脈で活用する場合の進め方

段階	ねらい	留意点	語り・声かけの例
導入	仕事について、それぞれが自分なりに考えるモードに切り替える	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 今日の授業は「仕事について知る」ためではなく、さまざまな観点から「仕事について考える」授業であると明確に伝える。</li><li>■ その流れで、仕事を見る6つの観点（目的／価値／やりがい／苦勞／道筋／自分との接点）を簡潔に示し、ワークシートとつなげる。</li><li>■ 質より量が大事なので、視聴中に気になったことをとにかくワークシートにメモすることが大切だと伝え、記述への負担感を和らげる。</li></ul>	今日のテーマは「ともにキツク社会」。身近なモノやサービスの背景にある仕事や社会とのつながりについてさまざまな観点から考えていきます。正解を当てる授業ではありません。引っかかったことを、短い言葉でメモしていこう。
展開	さまざまな観点から仕事を捉え、対話を通じて仕事観を育む	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 動画を観ながら十分にメモしきれなかった児童生徒のために、視聴後にも少し記入時間を取る。</li><li>■ 話す項目が混ざると対話が深まりにくいので、ワークシートの項目ごとに順番に話していくよう促す。教員が話す順序を指定しても、グループごとに「一番気になった項目」から共有する形でもよい。</li><li>■ 「感想」の共有だけで終わらず、できる範囲で気になった場面（どこでそう思ったのか）を確認しながら、対話を深めるよう促す。</li><li>■ 対話ワーク中は教室全体を歩き回りながら、対話が止まっている・発言者が偏っている・対話が浅いグループがないかを観察する。必要に応じて声かけをし、さらなる対話を促す。</li></ul>	まずは、この仕事の「目的」から順に考えていこう。誰のどんな困りごとを解決するための仕事だろう？ どの場面からそう思った？そう思ったのはなぜ？ もしこの仕事が止まったら、何が困るだろう？ もしこの仕事にあなたが就くとしたら？ この仕事、どんな人が向いていそう？
まとめ	職場体験・進路探究につながる味方・考え方を確認する	<ul style="list-style-type: none"><li>■ 「仕事に対する新たな発見」については、既にグループ内で共有できているので、全体では特に、その共有をふまえて各自が感じたこと・考えていることを拾う。</li><li>■ 今後の職業体験・進路探究に具体的にどうつながっていくかを説明し、実際の活動へと発展させる。</li></ul>	この仕事についての印象はどう変わった？ もしインタビューできるなら、さらに何を聞きたい？ 今日考えた「仕事の見方」は、職場体験の準備にも使えるね。それぞれ自分が訪問する職場について、事前調査をしたり、質問リストをつくったりしよう。

## 7 授業の進め方のパターン詳細

### ① 授業のタイムライン

#### 動画視聴パターン

動画（約 20 分間）を一通り視聴し、内容を丁寧に汲み取りながら学ぶ形式です。視聴→記入→対話を小刻みに挟むことで、気づきや疑問を取りこぼさずに集められます。

#### 50 分授業の場合

段階	時間	活動内容	活動単位
導入	3 分	本授業のねらいの説明	全体
		本日の授業の内容・流れの説明	
		本日観る動画の紹介	
		ワークシートの配付・説明	
展開 1 サイクル目	10 分	動画視聴（前半）	全体 グループ 個人
	3 分	ワークシート記入	個人
	7 分	対話（共有）	グループ
展開 2 サイクル目	10 分	動画視聴（後半）	全体 グループ 個人
	3 分	ワークシート記入	個人
	7 分	対話（共有）	グループ
まとめ	7 分	振り返り・まとめ	全体

※ 45 分授業等で実施する場合は適宜調整してください。

#### 対話重視パターン

動画は授業の目的に合わせて一部（5～10 分程度）に絞り、対話の時間をしっかり確保する形式です。多様な見方を持ち寄り、共有を通じて視点を広げたり更新したりすることに重点を置きます。

#### 50 分授業の場合

段階	時間	活動内容	活動単位
導入	3 分	本授業のねらいの説明	全体
		本日の授業の内容・流れの説明	
		本日観る動画の紹介	
		ワークシートの配付・説明	
展開	5 分 ↓ 10 分	動画視聴（前半）	全体 グループ 個人
	5 分	ワークシート記入	個人
	15 分	対話①（共有）	グループ
	10 分 ↓ 15 分	対話②（深掘り）	グループ
	7 分	振り返り・まとめ	全体

※ 45 分授業等で実施する場合は適宜調整してください。

次ページに続く ↓

## ② 視聴する動画の選び方

### 共通動画パターン

クラス全員で同じ 1 本の動画を視聴し、その内容を共通体験として対話・共有を進める形式です。教員が授業のねらいに合わせて動画を選び、プロジェクター等で一斉視聴する運用が基本になります。

#### メリット

- 共通の材料があるため、全体対話を組み立てやすく、板書で論点を整理しながら深めやすい。
- クラスの気づき・疑問を全体でまとめやすく、振り返りにつなげやすい。
- 一斉視聴で運用でき、ICT や個別視聴の手間が少なく実施しやすい。

### 動画選択パターン

児童生徒がそれぞれ興味・関心のある動画を 1 本選んで視聴し、同じ動画を選んだ者同士でグループを組んで、対話を進める形式です(タブレット等での個別視聴を想定しています)。

#### メリット

- 自分で動画を選ぶことで没頭しやすく、主体性が生まれやすい。
- 同じ動画を選んだ者同士なので話しやすく、対話が盛り上がりやすい。
- 動画ごとの気づきの違いが見え、クラス全体の視点の幅が広がる。

## 8 授業後の展開案

### 1 探究活動の文脈

#### 1 「探究のしおり」をもとに探究の流れをつかむ

「探究のしおり」の「10のキズキ」にある「もっと探究」では、児童生徒が自分の興味・関心に合った「探究アプローチ」を選んで取り組みます。個人でも、クラスやグループでも始められ、問いや進め方のヒントも示されているため、探究の流れをつかむ導入として活用できます。

#### 2 「マイ探究」プロジェクトにつなげる

本授業で生まれた児童生徒一人ひとりの気づきや疑問を、実際に「探究してみたい問い」へと具体化し、その中でいちばん気になったことをテーマに据えて本格的な探究活動へ発展させることができます。しおりに掲載されている「12の探究アプローチ」を参考に、観察・比較・調査・実験・制作等、問いに合う確かめ方を選ぶこともできます。

#### 3 理科・社会科の「テーマ型探究」につなげる

理科・社会科の学習単位に関連する他の動画を活用し、本教材でみた授業と同様に、気づきや疑問を出し合いながら対話して考えを深めることもできます。今回の学び方を、そのまま他の題材にも展開するイメージです。その際も、本教材のワークシートをぜひご活用ください。

## 2 キャリア教育の文脈

### 1 「職場体験」の準備につなげる

職場体験の事前段階で本授業を実施することで、児童生徒が働くことや仕事を自分ごととして捉え、主体的な活動を促進できます。職場体験で実際に触れる仕事について、本教材のワークシート項目にある「目的」「価値」「やりがい」「苦労」といった観点で事前にリサーチし、その内容をインタビュー項目の検討に生かしてください。それにより、情報収集や質問づくりの質を高めることができます。

### 2 「自分探究」につなげる

動画に登場する人々の仕事への向き合い方の中で、共感した点や違和感を覚えた点を手がかりに、仕事や生き方に関する自分の価値観を深掘りする活動へつなげることもできます。具体的には、「仕事とは何か?」「キャリアや人生で大事にしたいことは何か?」といった問いを児童生徒に投げかけ、自分の考えを自由に書き出しもらったうえで、その内容をもとに対話を進める、といった形で展開できます。

※自分の考えを可視化するための「マインドマップ」や「マンダラチャート」等も有効なツールです。

### 3 「進路活動」につなげる

動画から得た気づきや学びを、児童生徒の進路選択の検討に生かすこともできます。ワークシートの「目的」「価値」「やりがい」「苦労」といった項目を、志望動機書や自己PR文を作成する際の観点としてご活用ください。

## その他の細かな工夫・対応

### ● 学年・発達段階に応じた工夫・対応

小学校高学年向けの実施等、基本パターンでの進行だと難易度がやや高い場合は、扱う語彙を易しく補足解説したり、ワークシートの記入項目を絞ったりする等、活動の負荷を調整してください。また、必要に応じて授業の途中で探究のしおりを配付し、しおりを参照しながら対話を進める形にするのも有効です（しおりの活用方法や注意点については後述）。

### ● 授業時間・コマ数に工夫・対応

2コマ以上確保できる場合は、動画を複数本視聴したり、対話の時間を長めに取ったりすることで、気づきや疑問をより広く集められます。さらに、対話した内容をクラス全体で整理してまとめる時間を設けると、学びを収束させやすくなります。

また、家庭で各自が自主的に学習を進めることに慣れている場合は、動画を事前視聴とし、授業は対話や共有を中心に進める「反転授業」形式で実施することも可能です。

### ● ICT環境に応じた工夫・対応

1人1台端末がない、あるいは通信が弱い環境では、個別視聴を前提とした運用が難しいため、「共通動画」パターンでの実施を基本としてください（教員が視聴箇所を指定し、一斉に視聴する形が安定します）。

# 9 補助教材の活用（ワークシート・探究のしおり）

## ★ ワークシート

本教材では、「探究活動版」と「キャリア教育版」の2種類のワークシートを用意しています。

- キツキのメモ欄（6カ所） …… ワークシートの枠に記入する中で、問いのタネや、仕事と自分との接点を見つけられるようになります。
- 質よりも量 …… 質にこだわりすぎず、たくさん書き出してもらってください。
- 気になる項目から記入を …… 上から順番に記入する必要はありません。

## 1 探究活動の文脈で活用する場合

**ともにキツク社会 ワークシート** 探究活動版

動画のテーマ 洋館づくり 冷凍食品 鉄道 カプセルトイ 美術館

1 組 1 番 名前 **社会 キツク**

どこからどのように記入してもOK！動画を見て気になったことを書き留めよう

**発見** 「おもしろい！」「すごい！」「思ったことは？」

座ったラムネ瓶  
3D デザイナーが使っていた道具  
エアブラシだけで細かいきれいな色が出る  
共同作業：企画の人+デザイナー+塗装の人+…

**空想** 「もしこうだったら？」と想像がふくらんだことは？

調味料のカプセルトイから、本当に調味料が出たら？  
遊び方変わりそう：カプセルトイでおまご

**意外** 「予想と違った」「こんな裏側があるんだ」と思ったことは？

カプセルトイ、アメリカ発  
800 億円  
ガチャガチャの横にある回収ボックス

**違和感** 「モヤッ」としたとこ、「引っかけり」を感じたことは？

カメのプラ包装にただで、削減になる？  
ミニチュアの機能、本当に動く必要がある？  
細かいとすぐ壊れそう

**疑問** 「なぜ？」「どうして？」と気になったことは？

日本に渡ってきた当時のカプセルトイって？  
録音、どこにどんな部品？  
トイレのトイの仕組み  
一つ一つ手作業。工場でつくってないの？

**難解** 「理解できない」「意味がわからない」と思ったことは？

ネコモチーフが多いわけ

**振り返り** 今日の授業でどんなことを学んだ？一番心に残った気づきは？

最初はただ細かいのがすごいと思っていたが、それぞれのカプセルトイで、機能性、クレイジーな発想、リアルさなど、  
こだわりポイントがちがっていた。  
小さいのに本気でつくられているからこそ、見る人も欲しくなるんだと思った。

◀ 記入例

## 2 キャリア教育（職場体験・進路探究）に接続する形で活用する場合

**ともにキツク社会 ワークシート** キャリア教育版

動画のテーマ 洋館づくり 冷凍食品 鉄道 カプセルトイ 美術館

1 組 1 番 名前 **社会 キツク**

どこからどのように記入してもOK！動画を見て気になったことを書き留めよう

**仕事の目的** この仕事は、何を実現するために、誰のどんな困りごとに向かっている？

再現性（本物そっくり）  
奇想天外なアイデア  
おもしろさの共有

**仕事の価値** この仕事によって、社会や人のくらしはどんなふうになくなっていく？

日常の中の彩り  
企業の思いをトイを通して人々に届ける

**仕事のやりがい** この仕事をしている人は、どんなときに「やってよかった」と感じそう？

アイデアが形になったとき  
つくったものを使っている人を見たとき

**仕事の苦勞** この仕事は、何が大変そう？それをどう工夫して乗り越えているのだろうか？

アイデアをうまくトイとして表現すること  
試作品づくりからの改善  
ミニチュアのもとになる実物の観察

**仕事への道筋** この仕事に就くにはどうしたらよい？どんな力や経験が必要？

買いたくなるような商品の発想力  
社内、作家さん、企業など違った立場の人との対話力  
3D デザインの技術

**自分との接点** この仕事について、気になったことは？もっと知りたいことは？

どんなスケジュールで一年で完成するの？  
企画の人が3D デザインの調整もしている？  
資格とかは必要なさそう？

**振り返り** 今日の授業でどんなことを学んだ？一番心に残った気づきは？

おもちゃをつくることは、子ども向けだけではなく、日常の楽しさだったり面白さをつくる価値があるんだなと知った。  
私はいろいろなものを観察するのが好きなので、生かせる部分もあるかも。

◀ 記入例

# ★ 探究のしおり

「探究のしおり」は、動画視聴をきっかけに生まれた児童生徒の「気づき」や「疑問」を手がかりに、見方・考え方の幅を広げたり、問いの方向性を増やしたりするための補助教材です。

**12の探究アプローチ**  
さまざまな探究の進め方・考え方を紹介しています。本教材に限らず、探究活動全般に応用できる内容ですので、授業のさまざまな場面でご利用ください。

**動画紹介**  
動画の概要説明とあわせて、視聴用の URL リンクを掲載しています。

**10のキヅキ**  
動画の内容から想定される10個の「気づき」「疑問」の例を提示しています。さらに、それぞれについて探究を深めるためのポイントや切り口を3つずつ紹介しています。児童生徒一人ひとりの興味・関心に合うテーマを探して、探究活動に活用ください。

## 👉 活用パターン① 授業準備時（教員向け）

教員が授業設計を行う際に、動画のどこに注目点があり、問いのタネになり得るか、どのような問いかけが有効かを検討するための参考資料として活用可能です。導入のフックや、対話で拾いたい観点の見通しを持つのに役立ちます。

## 👉 活用パターン② 授業の振り返り時（クラス全体）

児童生徒の「気づき」や「疑問」を共有したあとで、「さらにこんな見方もある」と補助的に提示し、考えの幅を広げることができます。児童生徒の気づきを起点に、視点を「追加する」形で使うと効果的です。

## 👉 活用パターン③ 行き詰まり時の補助（グループ）

ワーク中に気づきが出にくいグループには、まず問いかけや着眼点の提示、言語化する手がかりの提供等により、個別にサポートしてください（P.5-6 参照）。児童生徒が困難を感じているようでしたら、探究のしおりを手渡すことは再考のきっかけとなります。配付する際は、「どこを見るとよいか」をピンポイントで示してください。

**注意点**  
使い方の  
コツ

**動画の視聴前・視聴直後には配付しない**  
早い段階で配付すると視点が固定化され、児童生徒の気づきが抑えられてしまうおそれがあります。  
まずは動画と対話を通じて、児童生徒自身の「気づき」を十分に出し切る時間を確保してください。

**「答え」を渡すのではなく、「視点」を渡す**  
「探究のしおり」は、正しい問いや見方を教えるものではありません。児童生徒の問いの芽生えを妨げないよう、児童生徒の「気づき」を尊重したうえで提示してください。  
また、配付時には、あくまで一例である点を強調してください。

---

## サイエンスティーム 探究・STEAM 教育動画「ともにキツク社会」 教員用ガイド

2026 年 3 月発行

【発行】 国立研究開発法人科学技術振興機構 (JST)  
〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3

【監修】 かえつ有明中・高等学校 教諭 深谷新

【企画制作】 株式会社 a.school (エイスクール)



<https://scienceteam.jst.go.jp/>



<https://www.jst.go.jp/>



- 
- 「マインドマップ」は英国 Buzan Organisation Ltd. の登録商標です。
  - 「マンダラチャート」は一般社団法人マンダラチャート協会の登録商標です。  
<https://mandalachart.jp/>
  - 本書に関するお問い合わせは、「サイエンスティーム」ウェブサイト内「お問い合わせ」からお願いいたします。